

The Akita University Post



AUPブログ
開設しました

Thursday, February 17, 2011 第14号



発行 AUP 秋田大学報道局

主筆 鎌田 美咲

編集デスク 工藤 翔吾



ミス秋大インタビュー
秋大アイドルAKT48独占取材！
目からウロコ！就活特集
小惑星探査機「はやぶさ」秋大に到達？
写真部の渾身の作品展示



「技術立国である日本では、凡人であっても世界最先端の研究ができる」新進気鋭の若手研究者はこう語る。学生も疎らな休日のキャン

パス。中央大学理工学部 中村太郎准教授(35)はバイオメカトロニクスは直前まで行われていた長時間にわたる会議の疲れも見せず、淡々と取材に

応じてくださった。中村先生は鉱山学部(現工学資源学部) 機械工学科を卒業。博士前期までを秋大で終

秋田百聞

メカトロニクスとは聞きなれない言葉だが、「生物・生体の運動 機能をロボットに適用する研究」だという。先生は十年近く続いた秋大での生活で、秋大で学んだ制御工学の知識と、田んぼで見たアメンボやミミズの動きを応用させ現在の研究テーマに行き着いた。そして、この分野で「日本ロボット学会奨励賞」、「日本機械学会奨励賞」を受賞するなど注目を集めている。

学生時代のこと話及ぶと、中村先生は「数学が不得意で、文系科目の方が成績は良かった」と笑って話す。ではなぜ、鉱山学部に進んだのか。そこには小学校5、6年生での理科の先生に褒められた経験があるという。その経験から「理科離れが今問題となっ

ているが、教師を目指す学生にはより多くの理系の学生を作ってほしい」と先生は真剣な顔で語ってくれた。そんな先生は4年生での卒業研究をきっかけに研究に熱中する。他の学生とは比べようのないほどの論文を発表し、学会や国際会議に出席していた先生の足は自然に研究職へと導かれた。つまり、ここで現在の礎を築いたのだ。

ここまでは、誰もがうらやむような順調なキャリアを重ねてきている中村先生。だが、自身のことを「雑草魂」や「成り上がり」といった言葉を使い説明する。そこには、決して恵まれた才能や環境があったわけではなく、自分自身の力で切り開いた道だという自負があるのだ。そんな先生だからこそ、秋大生に対して「もっと勉強しろ、もっと外に出ていけ」と熱いメッセージをいただいた。これは、研究だけでなく就職活動、課外活動にも共通していると先生は厳しく指摘する。「技術立国である日本では、凡人であっても世界最先端の研究ができる」秋田の中だけでものを見ていても仕方がないということだ。

学部長、院生合わせて30名の学生を抱える中村先生は、これからの課題を「学生一人一人の課題をクリアして実用化するだけ」とやはり淡々と答える。しかし、そんな先生は取材を終えると一目散にパソコンに向かう。その姿からも多忙ぶり、充実ぶりが伺えた。(濱田俊太郎)



年が明け初売りも終わり、正月ムードが払拭されると今度はどの店も赤とピンクと茶色に染まる。すなわち2月14日「ヴァレンタインデー」である。その勢いはお菓子屋さんデパートだけに留まらず、スーパー、コンビニ、百貨ショップ等、ありとあらゆる場所を染め上げる。そもそも始まりが聖人の殉教に由来する記念日であり、欧米では男女ともに花やケーキやカードなど様々な贈り物を恋人や親しい人に贈る日である。日本で定着したのは70年代後半だ。女性が男性にチョコレットを贈るといふ日本式のヴァレンタインデーが成立したのもその頃であった。

(菅原成美)



ナランゲレル ホスエルデネ (Нарангэрэл Хос-Эрдэнэ) 1987年11月9日生まれ モンゴル ウランバートル出身。新モンゴル高等学校卒業。2007年 秋田大学 教育文化学部 国際言語文化課程 入学。

今年のみス秋大は モンゴルとの架け橋

10月23日の秋田大学祭初日、今年も学園祭の目玉であるミスコン「秋田大美人」(企画AUP 主催 秋大祭実行委員会)が開催された。3回目を迎えた今年のテーマは「強く・気高く・美しく」。華やかなドレスを身にまとい、この日に向けて準備を重ねてきた候補者は4名。その中から、見事グランプリを勝ち取ったのがモンゴルからの留学生ナランゲレル ホスエルデネさん(教育文化学部4年)だ。

「自分のベースで自分のやりたいことをやる」と話すホスエルデネさんは、大学院に進み教育開発の勉強を続けたという。彼女の目標は国連で働き、モンゴルと日本の交流に貢献することだ。すでに、その一環として動き出した彼女。近い将来、モンゴルと日本、秋田の距離を近づけてくれるだろう。

を得て開校された学校で、日本語の授業が必修になっている。この選択が彼女を日本の大学へと導くこととなる。

「自分のベースで自分のやりたいことをやる」と話すホスエルデネさんは、大学院に進み教育開発の勉強を続けたという。彼女の目標は国連で働き、モンゴルと日本の交流に貢献することだ。すでに、その一環として動き出した彼女。近い将来、モンゴルと日本、秋田の距離を近づけてくれるだろう。

「自分のベースで自分のやりたいことをやる」と話すホスエルデネさんは、大学院に進み教育開発の勉強を続けたという。彼女の目標は国連で働き、モンゴルと日本の交流に貢献することだ。すでに、その一環として動き出した彼女。近い将来、モンゴルと日本、秋田の距離を近づけてくれるだろう。



か。今回、そのAKT48の代表である教育文化学部2年の桑島佳代さんら4人からAKT48について詳しく話を聞くことが出来た。

18名で構成されており、その多くが国際言語文化課程の学生。空いている昼や夜の時間を利用して、教育1号館脇のステージや教育3号館1階のピロティ、インフォメーションセンター前の広場で練習を重ねていた。なかなか人がそろわず、練習が夜中の10時

本番は1日目にステージ発表と2日目に学生会館前広場のゲリラライブがあり、AKT48の「ヘビローテーション」「大声ダイヤモンド」「言い訳Maybe」そしてアンコールには「会いたかった」の計四曲を制服ベースの衣装で披露した。あまりにも多くの観



10月23日、24日の2日間に渡って行われた秋大祭は記憶に新しい。様々なステージ発表の中でひととき目を引き話題を集めたダンスグループ「AKT48」を知らない人はいないだろう。いったいあの人気の秘訣はどこにあるのだろうか

スを踊っていたことが始まりで、その頃から秋大祭に出ることを意識し始めた。2学期に入り周囲に声掛けをしてメンバーを集めだし、全員そろっての本格的な練習は10月に入ってから。現在のメンバーは教育文化学部2年生の女子

から深夜2時まで及ぶこともあったり、本番前の1週間は毎日が練習で学業との両立に苦労したりもしたが、「やるからには本気で最高なものをやるう！」という強い気持ちを持って乗り切ったという。

秋大に新アイドル誕生!! AKT48☆

客が集まり、それにはAKT48自身も予想していないことだった。このカフエの特徴といえばなんといっても料理である。カフエとはいももの、食事のメニューが本格的で食事を目的としたお客も多いそうだ。その食事としては、自家製のパンや玄米、野菜、山菜などが中心の料理が多く、身体に良い食材が多く使われており、女性に人気だそう。そのほかにも、飲み物では珈琲、紅茶、中国茶などがあり、デザートのお菓子も充実している。

「ANDANTE」は若い女性が一人で経営している。このカフエは席が四つしかないため1人1人の持て成しを大事にしてくれる。これはチェーン店ではありえない個人経営の良さであると思う。このカフエの特徴といえばなんといっても料理である。カフエとはいももの、食事のメニューが本格的で食事を目的としたお客も多いそうだ。その食事としては、自家製のパンや玄米、野菜、山菜などが中心の料理が多く、身体に良い食材が多く使われており、女性に人気だそう。そのほかにも、飲み物では珈琲、紅茶、中国茶などがあり、デザートのお菓子も充実している。

AUP通信

AUPの記者たちが毎回お届けする、オススメレポート。居酒屋、雑貨屋、本、など幅広く紹介するコーナー。

AUP
AKITA UNIVERSITY POST

「ANDANTE」は人の温かさを感じられる。落ち着ける空間である。日々の生活では味わえない時間を提供してくれるそんな「ANDANTE」をぜひ訪れてほしい。

URL: <http://andante.hanagimori.com>
(高橋 輝)

就活最前線 に立つ人々に迫る

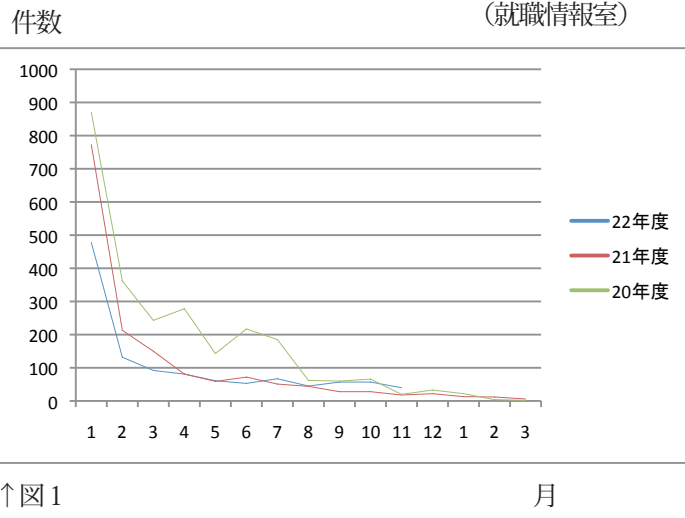
平成22年度 大学卒業予定者 就職状況

過去最悪の就職氷河期といわれた平成22年度大学等卒業予定者の内定状況調査結果(平成22年度10月現在)が今年11月16日発表された。厚生労働省及び文部科学省によると大学の就職内定率は57.6%で前年の同じ時期を4.9ポイント下回った。男子は59.5%(13.8ポイント)、女子は55.3%(16.3ポイント)。就職内定率は平成8年度の調査開始以来過去最低の水準であった。

厳しい就職状況は秋田大学とて例外ではない。秋田大学教育文化学部就職情報室に寄せられる企業求人数も減少の一步をたどっている。

平成20年9月のリーマンショック以降景気が悪化し、秋田大学生の就職活動にも影響をもたらした。リーマンショック以前の平成20年度1月は八七一件あった企業求人数が平成22年度と同じ時期には四七八件にまで落ち込み、前年度の半分程度に留まって

企業求人件数の推移



↑図1 月



また秋田大学教育文化学部の平成22年度卒業予定者のうち内定をもらっている学生は11月現在で一八二人で、求職者の66.4%を占めている。さらに内定者の就職先としては講師を含む教職が19.2%、公務員・法人が22.0%、企業が58.8%となっている。

秋田大学 ジョブ・フェア 開催

12月11日に秋田ビューホテルで秋田大学 合同企業説明会(ジョブ・フェア)が行われた。一四〇社以上が出席した。ジョブ・フェアは秋田大学の学生支援総合センターが毎年主催しているもので、学生が企業の詳細な情報や求める人材像等を把握し、職業選択の参考とすることを目的に行われている。

当日会場には多くのリクルートスーツ姿の学生が参加した。人事担当者の説明を真剣なまなざしで耳を傾けていた。人気の企業は学生が順番待ちをしていたり、何列にもなつて話を聞いている様子もしばし見られる程だった。教育文化学部3年の石田詩穂さんは「ホームページや

資料だけでは得られない社員さんの働いている様子を知ることができてよかった」とジョブ・フェアでの成果を話してくれた。

秋田県出身で弘前大学に在学し、今回ジョブフェアに参加した女性は「就職で秋田に戻りたいが青森には秋田県内企業が説明会にくることはまずない」と憤りを感じていた。さらに「今までジョブフェアは県外の大学は参加できなかったため、今回の機会を嬉しく思う」と話した。



秋田の学生の印象は人と話すのあまり抵抗がないように思える。

「リーマンショック以降、学生が失敗することを恐れて大人しくなったように思える。内定がほしくて相手に合わせすぎているのではないか。個性を大切にしてほしい。わからないことを聞ける、困っている仲間がいたら助けを求められるような人がほしい。」

NTT東日本
採用担当
池田真澄さん

自分の人生で大事にしたいことは何かを考えてほしい。挑戦し続けたい、人の役に立ちたい、ありがとうと直接言われたりなど大事にしたいものは人それぞれ。答えが見つかったら、自分の答えにリンクする会社を選べるはず。

就職相談 スペシャリスト に聞く

教育文化学部3号館2階に「就職情報室」と書かれた看板をみたことがあるだろうか。就職情報室のドアを開けると季節問わずいつも心地よい温度に包まれる。部屋に漂う心地よさは温度だけのものではない。就職相談室で迷える就活生を優しくサポートする二人の就職相談スペシャリストにお話を伺った。



世間では就職氷河期と言われていて、就職相談室へ訪れる学生はここ数年減少したという。そう話すのは村上勝子さんだ。学生の相談数減少の要因を就活サポート機関の増加と分析している。この状況に対して「学生が一つの相談窓口だけを利用して満足して、視野が狭まりはしないか」と懸念している。いろいろなものを嫌わず

に、何でも挑戦してみることが重要だと考えている。行ったことが一度もない就職相談室に足を踏み入れるのは少し緊張してしまうかもしれない。しかし行動が付きもの就職では自分で道を切り開くことが必要不可欠な要素だ。何をしたらいいのか、何から手をつければいいのか、わからない時は、「悩まずに就職相談室のドアを開けてみてほしい」と笑顔で話してくれた。

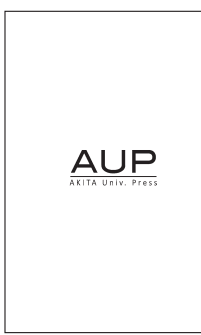


教育文化学部就職委員長 4年目の中村裕さんにお話を伺った。企業が一人の学生を雇用した場合には生涯で約2億5千万ほどの費用がかかる。内定者を得るといことは企業にとってとても大きな買い物だといえる。だからこそ、人事担当者も就職活動では会社のために優秀な人材を強く求めるのは当然。入社してから10年間のマニフェストがたてられるかが重要な要素である。企業で何をしたいのかを明確にすることが大切である。

さらに就活だけを重視して普段の大学授業をおろそかにし、単位が足りず卒業できない事態は避けてほしい。せっかく決まった内定もだいたなしズバリ、受かる人はどんな人が聞いたところ、「自分が企業、自治体になぜ志望したかはっきりと伝えること」と話していた。(鎌田美咲)



教育文化学部就職委員長 4年目の中村裕さんにお話を伺った。企業が一人の学生を雇用した場合には生涯で約2億5千万ほどの費用がかかる。内定者を得るといことは企業にとってとても大きな買い物だといえる。だからこそ、人事担当者も就職活動では会社のために優秀な人材を強く求めるのは当然。入社してから10年間のマニフェストがたてられるかが重要な要素である。企業で何をしたいのかを明確にすることが大切である。



小惑星探査機

「はやぶさ」に

未来を託して

今年7月13日火曜日、秋田大学60周年記念ホールにおいてJAXAの川口淳一郎教授による講演会が行われた。川口教授は同講演会において「はやぶさ」小惑星の秘密に挑んだ7年の旅」と題してそのプロジェクトの経緯や苦労などの話や宇宙開発の将来展望などを時折冗談を交えて語った。

プルの入ったカプセルを持って地球に帰還した。その小惑星からサンプルを持ち帰る技術を「サンプルリターン」と言い、この技術の確立を目指す計画を「サンプルリターン構想」と言う。この構想のきっかけは昭和60年からあった。そしてこの技術を確立したのがこの講演会の講師である川口教授のチームである。

今年6月13日、オーストラリアのウーメラ実験場に小惑星探査機「はやぶさ」に搭載されていた帰還カプセルが着陸した。かの小惑星探査機「はやぶさ」は平成15年5月9日に小惑星「イトカワ」の表面の物質を持って地球に帰還する任務を負って打ち上げられた。その後平成17年11月末に故障し、復旧作業も困難を極めたなど非常に多くの困難を乗り越えて、見事「はやぶさ」は小惑星「イトカワ」のサン

また今年11月16日、「はやぶさ」の帰還カプセルにより持ち帰られたサンプル収納容器から採集した微粒子のうち「イトカワ」由来の微粒子が現時点で一五〇〇程度確認され

た。これは宇宙開発の大きな一歩で、原始天体である小惑星の微粒子を分析することにより、太陽系の起源と進化について解明されることが期待されている。

これからは、地球の資源の枯渇が心配される世の中である。今回の小惑星探査機「はやぶさ」の目的は小惑星からサンプルを持ち帰る技術を実証するための探査機だ。いつの日かこの「はやぶさ」によって確立した技術を利用して、遠く宇宙のかなたから地球に資源が供給される日が来ることもそう遠くはない将来の話であるのかもしれない。

吾 (工藤翔)



写真部が渾身の作品を展示 思い思いの28点が並ぶ

毎回不定期に写真部が開催している。現在部員数は30人ほどで構成されている。彼らの普段の部活動の集大成として、さまざまな作品が展示される(写真展)。



12月6日から始まった写真部主催の写真展が10日に終幕した。今回は28作品が展示され、部員思い思いの作品が会場であるインフォメーションセンターに並んだ。観覧者が作品をより楽しめるようにと照明の向きやBGMにもこだわった。BGMはオルゴール調を採用され、静かで温かみのある雰囲気会場を包んでいた。作品の下には題名と部員の作品に対するコメントが添えられていた。晴れた日に猫が階段を下る様子を上から撮影された作品の題名は「追跡」。『追跡』には「追うのも好きで

すが、一度は追われてみたいですね」と綴られていた。見る人を楽しませる工夫が会場にはつまっていた。写真展では観覧者にアンケートを実施している。気に入った作品の記入欄に自分の作品を見つけた時の気持ちを工学資源学部2年の吉田志保さんは「次はもっとよい作品をだそうと思ってる。自信になる」と話した。教育文化学部3年の高橋沙穂子部長は「もっと出展作品を増やしていきたい」と話し、観覧者数を増やすことを課題に挙げた。(鎌田 美咲)

AUP Photo Library.



冬のイルミネーション 秋田大学 (報道班 鎌田 美咲)

AUP INFORMATION

教育文化学部美術科 第58回卒業記念展の開催

美術科の学生の4年間の研究成果を発表する場で、さらに卒業生だけでなく、在校生の作品も展示。

日時：2/25(金)～3/1(火)
10:00～17:00
場所：秋田県立美術館
【問い合わせ先】
秋田大学教育文化学部事務部総務担当
TEL：018-889-2509

*入場は無料です。

合同フォーラム 「～資源・環境・ライフサイクルデザイン への新たな展開～」の開催

工学資源学部、工学資源学部産学官連携推進協議会、秋田大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー、あきたアーバンマイン開発アカデミー主催による合同フォーラム。

日時：3/3(木)
13:00～
場所：秋田ビューホテル4F
対象：企業・自治体等関係者、一般市民、大学・教育機関研究者
【問い合わせ先】
工学資源学科学研究科広報企画担当
TEL：0182-889-2318/FAX：018-889-2300
E-mail：kokoki@jimu.akita-u.ac.jp

編集後記

新人生の濱田です。いつの間にか、寒さの厳しい季節がやってきました。春が待ち遠しくなっています。春が待ち遠しいですが、ふと考えてみると春は別れの季節でもありません。主筆をはじめ、4年生が次のステージへと挑戦するのです。先輩方には扱いにくかったであろう私を、笑顔で受け入れてくださったことに、改めて感謝しています。AUPは学生新聞を作るのと同時に、企画系のサークルでもあります。つまり、それぞれが「挑戦したいこと」、「問題意識」を持った仲間なので、私たちはそれぞれに良い

刺激を与えあっているようです。私自身の変化としては、1ヶ月間ルーマニアへの大学研修 (University of Bucharest) に行くことになりました。そこでも多くのことを学ぶでしょう。季節は少しずつ変化していきます。この春は別れのさみしさを胸に、新しい仲間、成長した自分との出会いを楽しみたいと思います。(濱田俊太郎)



3月8日発売決定!!
サークルKサンクスとAUPコラボ商品
秋大生とミス秋大のアイデア満載☆